

タイトル：分散下校の改善案を提案しよう

問題場面：

コロナ禍における分散下校について、下駄箱付近で起こる「密」と学年によって待ち時間の長短があることが問題になっていた。日々、子ども達自身が不具合を感じている分散下校のあり方について問題を特定するための現状把握の方法を考え、問題点を見出す。その上で目的に応じた解決策を考え、実行し、評価する。さらに、必要に応じて改善案を考える。

対象：小学校第6学年

目標（何を育むか）

- ・身の回りの問題について解決の見通しを持つ
- ・現状を把握するためのデータを収集・分析し、データから問題点を見出す
- ・見出した問題点について解決策を考える
- ・解決策を実行し、結果を評価、さらに改善策を考える

指導計画

4時間構成

※ただし、データの収集や収集方法の見直し、改善案の試行は算数の時間外（朝の会や帰りの会など）で行っているため、実際にはこの4時間に含まれない時間も利用している。

第1時 問題は何か？－意見交換と現状把握のための計画

第2時 集めたデータの分析方法についての話し合い

第3時 データ分析と改善案の提案

第4時 試行した結果の共有と評価

授業の様子（授業を実践されていない場合は、想定される活動） ページの先頭

対象：都内国立大学法人附属小学校第6学年33名

「データの活用」の最後に、自分たちだけで探究する「卒業研究」と題し、毎日直面している下校についての問題に取り組むことになった。

第1時は、6年生から見て現状の何が問題だと感じているのか意見交換を行った。学校で実施している分散下校の方法は次の通りである。

i) 1・2年→3・4年→5・6年の順に、バス2本ずつ（約20分ずつ）ずらして乗車できるように担任が児童を並ばせて教室から正門まで誘導する。授業時数が少なく下校が早い低学年から毎日6時間授業の高学年の順になっている。尚、水曜日は全学年が4時間授業の一斉下校になるため、下校の順番が変わる（iv）。

ii) 正門に着いたら徒歩の児童は下校する。バス利用の児童のみ正門前で待たせて、時刻になったらバス停へ誘導する。

iii) 正門前の横断歩道（図1）は正門前の歩道が信号待ちの児童で混雑するため、B、C方面のバスに乗る児童以外は原則渡らない。

iv) 水曜日（全校が4時間一斉下校）のみ、下駄箱が一番近い5・6年（1階）→1・2年（2階）→3・4年（3階）の順に、i) 同様、20分ずつずらして時差下校をする。

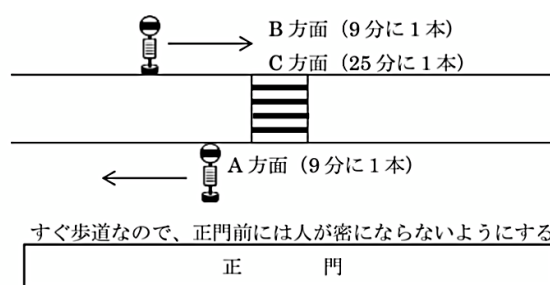


図1 正門と各方面のバス停の位置関係

児童が挙げた問題点は、主に、マナーに関するもの（マスク着用の有無、バス車中のマナー、通学路違反など）、現ルールに関するもの（横断歩道を渡ってはいけないなど）、密に関するもの（下駄箱付近で密になる、先に出た学年と後から出た学年が会う、バスの乗車人数が多いなど）であった。どれも問題ではあるが、データを利用して解決できることは何かと問い、暫定的に「正門付近や下駄箱の密を回避する」ことを解決すべき問題として設定した。

① 現状の把握

（i）必要なデータの特定と収集方法について

解決すべき問題が決まったところで、次に何をすればよいか問うた。「密」がどれ位密なのかを現状を調べる必要がある、という児童の意見で話し合いが始まった。

児童は、教室を出る時刻が異なるはずの2年生と6年生が、下駄箱（図2）で履き替える時に出会ってしまう経験から、教室を出る時刻と歩く速さに着目した。そして、距離と時間のデータを取ればよいことを挙げた。距離は校内図でも確認できるため、まずは時間を測ることになった。具体的にいつ実施するかを問うたところ、日によって異なるため、何日分かのデータを集めた方がいいという指摘がなされた。そこで、月曜日から金曜日までの5日分を集めることになった。また、関係者のインタビューも必要なデータとして挙げられた。具体的には、次のことについて学級全員で分担し調べた。

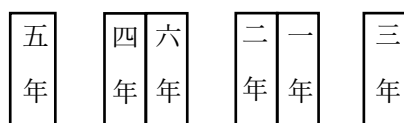


図2 下駄箱の配置図（2・6年は向かい合わせ）

データ収集

以下の時刻について、曜日と学年で担当者を決め、各学年の下校に同行しながらデータ収集を行う。

- ・教室を出発する時刻
- ・教室を出終わる時刻
- ・下駄箱到着時刻
- ・玄関を出終わる時刻
- ・正門到着時刻
- ・正門通過完了時刻
- ・バスで下校の児童がバスに乗る時刻

時刻は時計で確認し、移動にかかった時間はストップウォッチで測る。各学級に担当者が 1 名付き、先頭と最後尾のデータをとる。

インタビュー

下校の誘導をしている全担任(2 学級×6 学年)、玄関や正門付近で指導をしている専科教員、正門の守衛に、下校の現状、各方面の人数、バス利用者の人数等をたずねる。

翌日の朝の会で調査報告と次の担当者への引き継ぎを行った。1 日目のデータ収集をした翌朝の報告で、収集方法の見直しが提案された。そして、「学級ごとでは、担当の人数に対してデータの数が多く収集が困難である」、「バスに乗る時刻までを記録しなくても、正門を出る時刻から時刻表と対応させて乗車時刻の予想が可能である」、「教室から下駄箱までの移動時間が思ったより短いので、ストップウォッチで測る必要がない」という振り返りに基づいて、収集方法が修正された。すなわち、次の 5 つの時点での時刻について、学年ごとに先頭と最後尾の 2 名体制で収集することとなった。その際、時刻は時計で確認し、時間は計算することにした。

- ・教室を出発する時刻
- ・下駄箱に到着する時刻（先頭）
- ・玄関を出終わる時刻（最後尾）
- ・正門に到着する時刻（先頭）
- ・正門を出終わる時刻（最後尾）

(ii) データの分析方法について

下校時刻が学年によって異なることや、授業の事情から、全てのデータを集めることは難しい。そこで、1 週間分のデータを集めることにし、この間、並行して分析方法について考えた。まず、集めた月曜日と火曜日の 2 回分のデータを見ながら、どう分析するかを問うた。グラフにするという意見が出るものの、どんなグラフにするのか、そこから何を読み取るのかを問うと、黙ってしまった。そこで、縦軸と横軸に何を置くかと問うと、横軸に時刻、縦軸は場所にして、全学年の移動をグラフで表すという意見が出てきた。縦軸が数値ではないため、提案した児童と対話をしながら黒板で実際に軸をかくて確認していった。以下は、グラフに関する発話である。

T19:質問をかえるね。縦軸と横軸は何にすればいいかな。

C31:例えば、縦は場所で横は時間

T20:こんな感じ？縦軸は、場所だから…

C32:下から教室、下駄箱、正門。こういうのあるかわかんないけど、学年ごとに一番早いのと遅いのでグラフを作って、全部の学年を重ね合わせるとぶつかるところがわかる。

T21: (前略) じゃあ、例えば火曜日でいうと、一番早いのが 14 時 26 分だから、20 分くらいかいこうか。(10 分間隔でメモリをかく)

Cs33:何年生の？

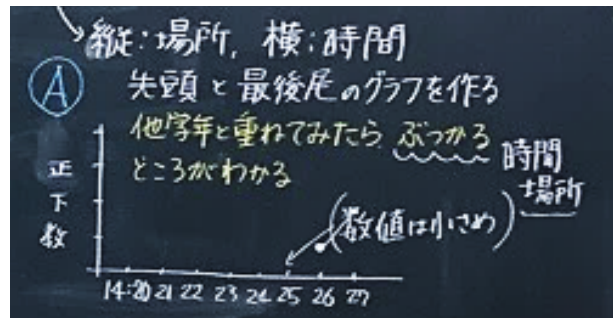
C34:あ、もっと 1 メモリを小さくしてください。

T22:もっと小さいほうがいい？

C35:だって 5 年生は 26 分から 35 分までだから、10 分刻みだとかきにくいから、もっと細かくしたい。

T23:なるほど、じゃあ 1 分刻みにしようか。数値は

小さい方がいいのね。(後略)



縦軸には教室、下駄箱、正門の 3 か所、横軸には最初の学年が教室を出る少し前の 14 時 20

図 3 板書でグラフの縦・横軸を確認

分から 1 分刻みで時刻を表す目盛をとった。半分以上の児童はこのグラフで何が表せるのかをまだイメージできていない様子であった。別の分析方法はないかと問うと、ある児童から、地図上でコマをデータ通りに動かしてみろというアイディア(以下、「シミュレーション」と記す)が出された。教師が説明を補う形で、方法を共有すると、多くの児童が関心を寄せた。以下は、シミュレーションに関する発話である。

(中略)

C40:私のイメージでは、保健室にある怪我マップみたいな、学校の構内図があって、そこに消しゴムとか何か置いて、実際の時間で各学年が動くのを消しゴムでやってみれば、どこで出会うかとか、どこで追い抜かすかとか、わかるんじゃないかと。

Cs41:どういうこと？

T26:グラフは A という方法で、今 B というマップを使う方法が出てきたね。S ちゃんが言いたかったことって、こんな感じかな？間違っていたら教えてね。イメージはすごく。

C42:ああ、わかった、すごく。

T27:保健室にあるような大きな構内図に、すごろくのコマを学年ごとに置いて、そのコマを動かす各学年担当がいるのね。それから、時計係がいて、時間を進めていくわけ。で、みんながとったデータ通りに、各学年担当の子がコマを進めていく。何時何分、3 年生スタート、みたいな感じで。

Cs43:ああ。

Cs44:なるほど。

Cs45:面白そう

Cs46:それやりたい。

T28:S ちゃん、この説明で合っている？

C47:うん。そうしてみれば、実際に起こっていることが机の上でわかると思う。

Cs48:すげえ

C49:これさ、マスでもいいじゃんね。

第 2 時は、前半で提案されたグラフの理解を図るため、全員で火曜日のデータをグラフにしてみる活動を行って終わった。本来は、インタビューの分析をして原因を特定してから、データの分析に移る流れであったが、データが揃っていないことと、時間の都合で第 3 時に全てを並行して行うこととした。

(iii) データの分析について

第 3 時は、インタビューの分析、グラフかシミュレーションを利用したデータの分析のいずれかを選択して各自で自由に活動する時間をとった(図 4・5)。グラフについては、時間短縮のために予め縦軸・横軸を設定した用紙を希望者に配付した。

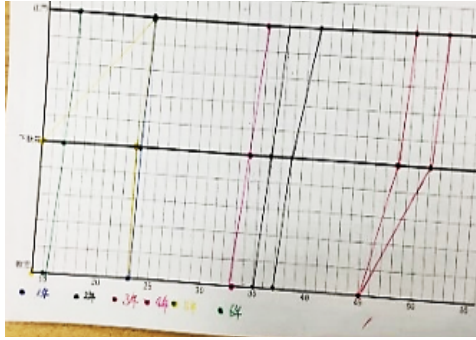


図 4 児童がかいたグラフ



図 5 シミュレーションの実施

じっくり分析するのに十分な活動時間ではなかったが、わかったことを全体で共有することにした。インタビュー及びデータの収集と分析を通して行った現状把握の結果は以下の通りである。

インタビューからわかったこと

- ・バスの乗り遅れや早く乗車する児童がいてバス停が密になる。また、駆け込み乗車も起こる
- ・バスの乗車人数が多いためバス停が密になる
- ・正門で友達を待つ人がいて密になってしまう
- ・問題（密になる）は全学年が一斉下校の水曜日
- ・先生が誘導しないと下校できないので大変
- ・中学校と下校時刻が重なることがあると密になるバスの乗車人数データからわかったこと
- ・学年でバス乗車人数に偏りがある
- ・C 方面の本数が少なく、B 方面の乗車人数が多いため、B・C 方面のバス停の密が起きている

下校データ（資料 1, 2, 4）からわかったこと

- ・低学年は下駄箱の滞在時間が長く、下駄箱で単学年の密が起こっている。（資料 1 点線部分）
- ・先頭と最後尾で教室を出る時刻の差が大きく、他学年と下校が重なってしまう（資料 2）
- ・学年間の出発時刻に開きがあるので、もっと下校時間の短縮が可能ではないか（資料 2）
- ・下駄箱から正門までの移動時間に偏り（30 秒～4 分まで）がある（資料 4）
- ・低学年を除く下駄箱の通過時間は 10 秒～30 秒と短く、問題になっていない。（資料 4）

② 解決策の立案

わかったことや原因を共有するにつれ、多くの児童から、次のような提案がなされた。

- ・時差をつけても、他学年と重なったり（資料 2）、低学年が下駄箱で密（資料 1）になったりするのだから、学年ごとの下校をやめる
- ・学年ではなく、方面別で計画をする
- ・学年によって乗車人数（資料 5）に偏りがあるから、徒歩とバスの下校は一緒に考えるのではなく、バスだけの乗車計画が必要
- ・給食の時間からずらす、放課後遊びを復活させる等、もっと下校の時差を大きくする
- ・西門を開けて徒歩を分散させる
- ・先生が中学校との連携を図る

データやグラフから読み取った結果を解決策に生かしている意見や、もう少し詳しい学級ごとのデータをとった方がよいという意見がある一方で、使用する門や下校時刻の見直しなど、分散下校の前提そのものを変える案も出てきた。提案に対し、安全管理上の理由で、普段使っていない門の解放は実現が難しいこと、試行段階で下校時刻の見直しはリスクが大きいことを伝え、それ以外で、データを基に考えられそうな次の 2 点に絞って改善案を作ることにした。

i) 学年別ではなく方面別で考える

ii) 徒歩とバスを分けて下校計画を立てる

i) は、徒歩下校の児童について、1 つの学年を分けて出すことによって下駄箱で起こる低

学年の密を解消することが目的である。また、複数の学年を同時に出すことで、問題点に上がっていた学年間の出発時刻の開きも軽減される。その際、正門を出て右方面と左方面それぞれのバランスを考え、偏らないようにバランスよく混ぜて出すことで、正門付近の密も避けようと考えた。「方面別」と呼ぶのはそのためである。ii) で徒歩とバスを分けるのは、バスの乗車人数に偏りがあるため、バス停や車内の密を避けるためのバス乗車計画が別途必要であると判断したためである。

計画を立てるにあたり、インタビューより、全学年が一斉に下校する水曜日が問題であると考え、改善案の実施日を3月17日(水)と決め、朝や帰りの会等を利用して下校計画を進めることにした。計画の話し合いは、教師を含めた徒歩の下校計画チーム(27名)とバスの乗車計画チーム(6名)に分かれて行った。

徒歩チームは、下駄箱の配置と、集めたデータやグラフをもとに、下駄箱で出会わないよう全学年をバランス良く出す方法を考えた。図6の計画は、4時間授業を想定して各学年の先頭出発時刻と計画に基づいて予想される下校完了の時刻(→の先)を記したものである。

3, 5, 6年と1, 2, 4年で出発の時刻が5分ずれているのは、下駄箱が向かい合わせの学年が一緒にならないように配慮したためである。徒歩下校の児童は、各学年または学級で下校の方面に偏りがないように混ぜて3回(各学級10人または学年で20人ずつ)に分けて出す。最初が一番左の時刻に教室から下駄箱へ送り出し、()内に示された時間間隔で次のグループを出

Figure 6 is a handwritten schedule titled '下校計画' (Dismissal Plan). It lists times for different grades and bus routes. The schedule is organized into columns for different groups, with times ranging from 13:15 to 13:47. The plan includes a note about '10人ずつ(各クラス)理想!!' (Ideal!! 10 people per class) and a note about '一緒に帰る人' (People who go home together). The plan also includes a note about 'バス' (Bus) and a note about '10人ずつは理想だけど、一緒に帰る人で固めないと、結局正門で友達を待ったりして密になるから、同じ方面で一緒に帰る人をグループにしてほしい' (10 people per group is ideal, but if you don't fix it with people who go home together, it will be crowded at the main gate, so I want to group people who go home together in the same direction).

Grade	Start Time	End Time	Bus Route
4, 1	13:20 (1分30秒)	13:25	① 13:25 ② 13:25 ③ 13:47
4, 2	13:20 (2分)	13:26	① 13:26 ② 13:26 ③ 13:47
2, 3	13:15 (3分)	13:25	① 13:25 ② 13:25 ③ 13:47
4, 4	13:20 (3分)	13:30	① 13:30 ② 13:45 ③ 13:47
4, 5	13:15 (30秒)	13:17	① 13:17 ② 13:16 ③ 13:21
1, 6	13:15 (1分)	13:18	① 13:18 ② 13:16 ③ 13:21

図6 児童が立てた下校計画(左:徒歩/右:バ

発させる。この間隔は、各学年が教室を出てから下駄箱を通過するまでにかかった時間データの最頻値を基に設定された(資料4)。前後のグループが下駄箱で出会わないようにするためである。これを各学年3回に分けて行うため、間隔の長さを3倍した時間から算出した下校完了時刻が矢印の右に書かれている。また、「10人ずつは理想だけど、一緒に帰る人で固めないと、結局正門で友達を待ったりして密になるから、同じ方面で一緒

に帰る人をグループにしてほしい」という意見も話し合いの中で出てきた。これも、正門が密になる原因を考慮した解決策である。

計画していく段階で、一か所だけ、下駄箱が向かい合わせの1年と3年が重なってしまう(下校完了時刻を算出してみると、いずれも13:25と同時刻になってしまう)部分が出てきた。しかし、数値の操作ですぐに修正する方法がわからず、誘導の担当が様子を見てその場で調整することになった。

バス利用については、学年や方面ごとの乗車人数(資料5)と時刻表を照らし合わせて計画を立てていった。教師は徒歩下校の計画に加わっていたため、詳しい計画の過程は記録として残っていないが、元々の水曜日の下校ルール(5・6年→1・2年→3・4年)と乗車人数に基づき、時刻表を見ながら学年の割り当てをしていったと考えられる。最初は、1台につき乗車人数が10人を超えないように学年の組み合わせを考えていた。しかし、低学年のバス利用者が非常に多いため、行き詰まってしまった。そこで、バス1台に低学年は何人くらい乗車可能であるか、普段バス停で指導を担当している教員に話を聞きに行き、低学年の体格と低学年ゆえに学年内で乗るバスを分けるのが難しいことを鑑みて、1,2年生は最大20人と改めた。よって、計画を見てみると、人数が少ない①(A方面)は2学年ずつ同じバスに乗車するのに対し、低学年の人数が多い②(B方面)では、中・高学年が2学年ずつで低学年は1学年ずつ分けて乗車する計画になっている。また、さらに人数が少ない③(C方面)は高学年と低・中学年の2台に分けられている。

③ 解決策の試行と評価

当初4時間授業の場合を想定して計画を立てていたが、試行当日は全学年5時間授業であっ

たため、計画を5時間の時程に合わせてスライドしたものを児童と確認して作成し、試行することになった。全員で、各学年に同行する者、時間係、各学年のバス乗車児童の下校誘導、下駄箱付近の観察、正門付近の観察、バス停の観察等の役割分担をして、計画を遂行した(図7)。



図7 下校計画実施の様子(左:バス停/右:玄関)

第4時は、各担当で試行してわかったことや、成果および新たな改善点などを共有した。各自、詳細の報告の前に、①うまくいった、②調整の必要あり、③抜本的な見直しが必要、の3択で今回の下校計画を評価させた。その結果、①6人、②26人、③1人で、多くの児童が「調整が必要」という結論を出した。具体的な成果と課題は次の通りである。(担当ごとの実際の記述は資料6参照)

成果

- ・A方面のバスは密にならずスムーズだった
- ・学年によっては下駄箱が密にならずスムーズ

課題

- ・徒歩とバスを別に考えたので、徒歩とバスが下駄箱で出会って結果的に下駄箱が密になった
- ・バスは近隣の学校との調整も必要
- ・1年生が自分で判断して帰るのは難しい
- ・1年生のB方面のバス乗車人数が多すぎる
- ・1年生が乗車予定のバスが遅れたため、バス停が混雑
- ・他学年とは重ならなかったが、単学年で混む
- ・徒歩を3グループに分けて出すのが難しい

④ 改善案の立案

計画を試行してわかったことを踏まえ、どんな改善ができるかを問うた。一つは、特に低学年のB方面のバス乗車人数が多く混雑するため、学年で区切らずに並んだ順に人数で区切る。または、学年ではなく縦割りグループで下校すれば、乗車人数が多い低学年と少ない中・高学年でバランスがよくなるかもしれない、という案である。もう一つは、徒歩とバスを完全に分けて考えたため、後半にバス利用の児童と徒歩の児童が下駄箱で出会って密になってしまった。そこで、バスの時刻と照らし合わせて徒歩下校の調節をすべきである、という案が出された。一方で、下駄箱のスペースの狭さを指摘し、下駄箱の配置や大きさを変えればよい、という案や、B・C方面のバス停は本数が少ないC方面を待つ人、人数が多いB方面に並ぶ人で列が長くなってしまうため、バス停の位置を少しずらしたり、並ぶ列を分けたりすることも改善案として挙げられた。

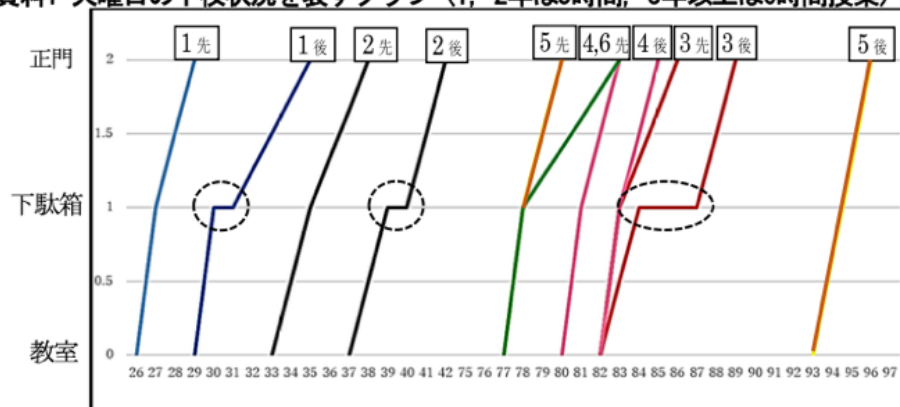
本時は卒業式前日であったため、これまでの活動を振り返りながら、「できた」「できない」ではなく、次に何を改善すべきかを見つけようとした姿勢を評価し、一度で成功するのではなく、何度も原因追及と実験やデータ収集、調整を繰り返してより良いものができていくことを伝えて終えた。

引用／倉次麻衣(2022)：社会的実践を志向する問題解決の授業実践－「分散下校の改善案を提案しよう」を例に－、日本数学教育学会誌、104、2、24-35。

(資料)

以下3つのグラフは児童が集めたデータをもとにexcelで作成した。縦軸は場所（距離を考えない）を、横軸は時刻を表す。例えば、資料1のグラフでは、5時間授業の低学年が出始める14:26から1分刻みでメモリを取った。（5・6年の出発時刻77分は-60をして15時17分を表している）グラフ中の「1先」は1年先頭を、「1後」は1年最後尾を示す。（他学年も同様）

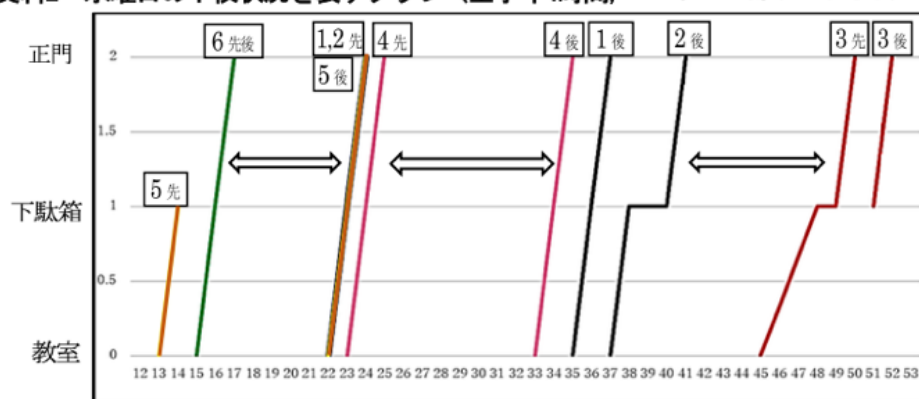
資料1 火曜日の下校状況を表すグラフ（1, 2年は5時間, 3年以上は6時間授業）



点線で囲んだ部分は、下駄箱で待ち時間が発生している部分。1年, 2年, 3年の最後尾に見られる。

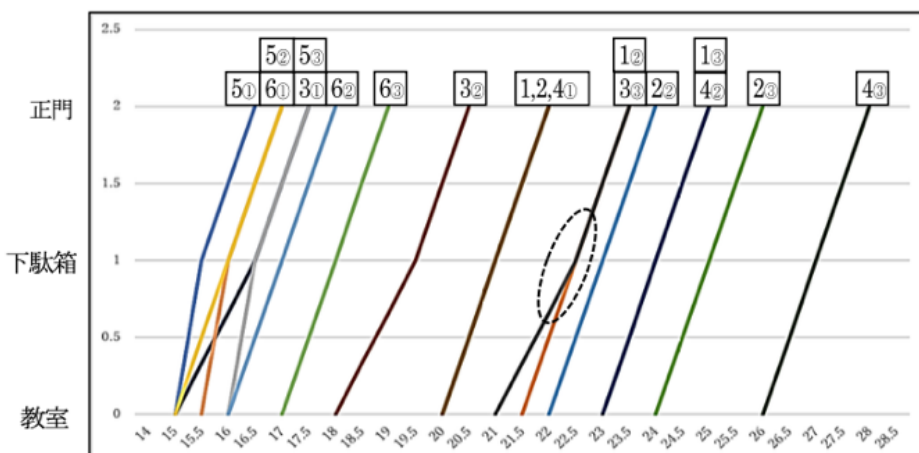
※6年最後尾のデータはなし。

資料2 水曜日の下校状況を表すグラフ（全学年4時間, 3・5年の一部データなし）



全体的にグラフの間隔が広い。水曜日は全校が一斉下校であるのに対し、順番が最後の3年生は下校開始から30分以上教室で待機していることがわかる。⇔は時間を詰めることが可能だと思われる部分。

資料3 児童が立てた改善案（徒歩）のグラフ（全学年4時間）



学年を3回に分けて出すため、各学年①～③で示す。点線で囲んだ部分は、下駄箱が向い合せの1・3年生が下駄箱で出会ってしまう箇所。グラフを見ると、3年生の間隔を全体的に狭くすることで、重なりが回避できることがわかる。

資料 4 収集したデータと教室を出発する間隔の算出方法

児童が収集したデータの一例(資料 1・2 の元データ)を挙げる。卒業式や関連行事等で全てのデータはそろわなかったが、一週間分(初日にデータ収集方法の変更があったため月曜日から翌月曜日まで)のデータを収集した。話し合いの結果、ストップウォッチの使用はしなくても良いことになったため、時間の項目に記載がない箇所がある。中間(下駄箱)部分のデータがないものについては、出発と正門着の時刻からグラフを作成した。

改善案は、これらのデータを基にして下校計画を進めた。各学年の教室出発から下駄箱通過までにかかった時間(分)は以下の表の通りである。先頭と最後尾でかかった時間が違う場合は平均をとっている。最初は月曜から金曜のデータの平均をとったが、5年生の火曜日のように外れ値があるため、データ数は少ないが自然と最頻値に目を向けて時間を設定していった。

3/2(火) 下校調査 / 担当 31班 35班 48班 43班 41班 40班											
		教室出発	(時間)	下駄箱着(先頭)	(時間)	下駄箱出(完了)	(時間)	正門着	バス停緑糸発	バス停大塚発	バス停池袋発
1	先	14:26	0' 19	14:27		14:27	2' 39	14:29	14:34	14:36	14:37
	後	14:29	0' 26	14:30	1' 70	14:31	2' 50	14:35			
2	先	14:33	1' 36	14:35	0' 17	14:35	2' 30	14:38	14:40	14:45	14:37
	後	14:37	2' 32	14:39	1' 26	14:40	2' 24	14:42			
3	先	15:22		15:23		15:23		15:26	15:25	15:31	15:27
	後	15:22		15:24		15:27		15:29			
4	先	15:20	1	15:21	0' 10	15:21	1' 43	15:23	15:25	15:31	15:27
	後	15:22	1' 09	15:23	0' 20	15:23	1' 50	15:25			
5	先	15:17						15:20	15:41	15:40	15:27
	後	15:33		15:33		15:37		15:36			
6	先	15:17	0' 30	15:18	0' 10	15:18	4' 10	15:23	15:41	15:40	15:27
	後										

3/3(水) 下校調査 / 担当 10班 37班 33班 36班 34班 38班											
		教室出発	(時間)	下駄箱着(先頭)	(時間)	下駄箱出(完了)	(時間)	正門着	バス停緑糸発	バス停大塚発	バス停池袋発
1	先	13:23	0' 04	13:23				13:24	13:28	13:34	13:21
	後	13:35				13:36		13:37			
2	先	13:35	0' 36	13:36	0' 12	13:37	0' 37	13:37	13:37	13:45	13:47
	後	13:37	1' 17	13:38	1' 09	13:40	1' 20	13:41			
3	先	13:45		13:48		13:49		13:50	13:55	13:55	13:47
	後					13:51		13:52			
4	先	13:23	1' 50	13:24	0' 10	13:25	0' 30	13:25	13:55	13:55	13:47
	後	13:33				13:34	1' 27	13:35			
5	先	13:14		13:14					13:28	13:25	13:21
	後	13:23	0' 03	13:23	0' 20	13:23	1' 18	13:24			
6	先	13:15	0' 34	13:16	0' 30	13:16	0' 20	13:17	13:19	13:25	13:21
	後										

	月	火	水	木	金	平均	最頻値
1	1.5	1.5	1	1.5	—	1.25	1.5
2	2	2.5	2.5	2	—	2.25	2.25
3	3	3	4	3	—	3.3	3
4	3	1	1.5	3	3.5	2.4	3
5	0.5	4	0.5	0.5	0.5	1.2	0.5
6	1	1	1	1	2	1.2	1

資料 5 バス利用の方面別人数

学 年	徒 歩	バス(方面)		
		A	B	C
1	40	7	19	4
2	48	6	15	1
3	53	4	8	5
4	52	8	8	1
5	46	4	11	9
6	53	3	6	5

※各学年 2 学級 35 人学級
(1〜2 名減の学級有り)

資料 6 試行後の振り返りの記述（ワークシート）

※ワークシートは一部回収できなかったが、振り返りの授業では全員の意見を共有した。

担当	成果	課題	感想
徒歩	1年	1年生の歩くスピードが遅くて、B方面のバスチームが青信号で2つのチームに分かれてしまった。 1年を帰らせる時、全員を短い時間で出すことができた。	1つの団体が大きすぎて、その中で密になっていた。上手く3に分けられていなかった。 短時間で1年生を帰すことができた。1年生の誘導が大変だった。指示は素直に聞いてくれるが、自主的に行動するのは難しいようだった。（自分が第1弾と分かっているが、第1弾だから最初に出る。とは考えていない）低学年（特に1年）の下校の指示は細かくすべきだったと思った。
	2年	分散だとざわつかない。下駄箱スムーズだった。 結構スムーズで、分散だとよい。 密にならなかった。	待っている人たちが退屈していた初めてだから興奮していた 6年生がいなくなったら先生がやる？→最初は先生に任せて、次第に慣れてもらえないのでは？でも、ゆるんでしまうか。 この活動をしたら、下駄箱がスムーズになったのでよかった。ただ、6年生がいなくなったらどうすればよいのか。 パーフェクトとまでは至らなかったが、自分達の計画が成功し、密も以前より減少したので良かった。しかし、実行して改めて気づいた問題点（6年生がいなくなった後どうするかなど）は、改善策を出したかったが、僕らの時間は限られているので、完璧な改善案が出せなくて残念。 メリットデメリットがわかったよかった。
	3年	階段が混まなくてよかった。 階段や踊り場での密は回避できた 階段が混まない。徒歩が帰るのが早い。	3分ごとに出すのが大変。徒歩組の用意が10分しかないから大変。最初に出る人と最後に出る人の時間が30分以上になる。（徒歩とバス） 下駄箱で他学年とぶつかる。3分間で出すのが大変。20人あつめるのが大変。教室と下駄箱を往復するのが大変で、先生1人じゃこのやり方は難しいと思った。 低学年だと、複雑な動きが難しい。 計画を立てたときはかなりうまくいきましたが、実際にやってみると下駄箱がすごく混んだり、20人集められなかったりと色々な問題が出てきてしまいました。 思ったより道は空いていたけれど、下駄箱はいつもより混んでいた気がするし、思ったよりデメリットが多くて、この案は改善が必要だと思った。けれど、いつもよりは少し密が減ったことはよかったと思う。 疲れた....
	4年	下駄箱はいつもより密ではなかった。 4年はうまくいった	バスに乗っている時、先のバス停で近隣の小学校の子が乗る時間に重なる密になる。 4年を見つ、ピロティで4年以外も見ていたけれど、1～3年が走ったりグループで密になったりしていたので、何か改善が必要
	5年	少し下駄箱で密になるところがあったけど、ある程度は距離が取れていた。走っている人もいなかった。 そこまで密にはならず、走らないでゆっくり歩いていた。	もう少し密になると思っていたけれど、下駄箱が近いのと、5年生が言うことを聞いてくれたのでスムーズにできた。 30秒間隔が意外と速かったですが、5年生がスムーズに動いてくれたので密にならずにできました。他学年とも密にならずにできていました。
	A方面	バスに並んで乗車できている。静かにきちんと並んで待っている。	主に低学年が大きな声で話したりくつきあったりして、並んでいる人の邪魔になっている。 自転車の人の邪魔になることもあった。
	方B面C		スイカをピツてやる時に手間取って、乗車に2分くらいかかっている。同じ学年や同じクラスでも分散乗車が必要。C方面のバスが遅れていた。
	1年	人数が多すぎて、1度に信号を渡り切れない。ほとんどの人が走っている。1、2年がバス停で重なってしまった。その結果、1本ずつ遅れて、2～4年がたまることになった。	1年生が乗っているバスは想像以上に密で驚きました。（バス停も）また、1年の先生は大変なんだと感じました。
	3年	3年生が下駄箱に行くまでは順調で、混雑はあまりしていなかった。錦糸町行きは混雑していなかったの上手くいった。	C方面行きは2～4年でタイミングが重なり、3、4年生を15分くらい待たせてしまった。また、クリーニング店の所まで長い列になってしまい、迷惑になるかもしれない。
	4年		2年生が遅れたから、つまり3、4年が来て大渋滞。 1学年でも遅れると計画が壊れる
その他	3年4	正門は比較的混んでいなかった。	下駄箱は混んでいた。近隣の学校の人もバス内で混ざったので、学校間で連携をしないとイケない。
	5年6	しっかり並んで密にならないように下校することができた。	先のバス停で近隣の小学校の子が乗ってくるので密になる。担当がわからずに、走っている子がいた。
	下駄箱		クラスごと、学年ごとどうしても下駄箱が近いから密になる。 他学年が重なることはなかった
			低学年は注意をしても、ピロティから歩いていく人が多い。下駄箱の過ごし方について、個人差（遅い子は遅い）がある。
	正門	正門にはあまり人がたまらなかった。 混雑がなくなった。K先生も混雑はなくなったと言った。	他学年を待つ子がいた（1名）横断歩道の途中で走ったり戻ったりしていた。 正門前の混雑はなくなりました。車が来ると危ないのと、少しだけその後混雑する。 正門前の混雑はなくなりました。5年生が他学年の友達を待っていたので、対策が必要だと思いました。